

磨き上げた本物志向の「永久仏壇」

A Q 仏壇工房（東京都・浅草）



宗派に関係なく、フローリングにも畳にも合う仏壇である。外観はコンパクトでシンプル。表面に塗られた漆が美しい光沢を放ち、落ち着いた色調の重厚な木目がかみと優しさを感じさせる。

他の仏壇との決定的な違いは、合成木材や化学塗料を一切使用せず、総無垢材や漆といった天然素材のみで造られていることと、分解組立ができることだ。素材には生きて呼吸をする天然の木を、塗装には天然塗料の最高級品である漆が使われている。バラバラに分解組立ができるメリットは、メンテナンスの便利さにある。何十年も使えば塗装は剥がれ、傷も気になるようになる。箱状で固定された従来型では塗り直しも困難だが、分解すれば再生修理も簡単だ。総無垢材の質感は長い年月を経ても変わることはないので、30年おきに漆を塗り直すことによって、新品時の状態を維持することができる。時間の経過で劣化するのではなく、年月を経ていつそう美しさと味わいが増す……それが「永久仏壇」なのである。

分解組立ができるという業界初の仏壇が誕生した。

再生修理を容易にすることで永遠の美しさを保ち、

100～200年使える構造となっている。

年月を経てなお価値が高まる「永久仏壇」の魅力に迫つてみた。

原点は社長自身による
「自分が欲しい仏壇」

滝田商店の「永久仏壇」は、現在で3代目の滝田雅敏社長の「自分が欲しい仏壇を作りたい」という願いから誕生した。滝田氏は大正2年創業の仏壇屋に生まれ、3代目を継ぐものとして育ち、店を手伝うようになってからも何の疑問もなく仏壇を販売していた。両親の住まいには仏壇屋らしく立派な金仏壇があり、毎日手を合わせるのが習慣だった。

平成12年、滝田家に突然の不幸が訪れた。父である先代の社長が癌で亡くなつたのである。「自分の住まいにも仏壇を置いて亡くなつた父と対話がしたい」と思い、部屋にどんな仏壇を置いたらよいかを考えた時、愕然としたという。

「欲しいと思う仏壇が店の陳列の中になかつたんです。わが家には畳の和室がなく、食事の場所を兼ねた洋間のリビングしか置く場所はありませんでした。仏壇屋なのに欲しい仏壇がない、これはかなりショック

なことでした」と滝田氏。

欲しいと思ったのは「リビングにも合う小さくて材質が良い仏壇」だった。狭いスペースなので大きいものは置きたくなかったが、小さくても材質だけはしっかりと手のが欲しかった。さつそく父の時代から手伝つてもらっている、塗り職人の山縣英夫さんと木工職人の置栖忠明さんに相談を持ちかけ、滝田氏のリビングに置くための仏壇製作がスタートした。

まずは材質の重視からである。それまでの仏壇の大半は、死んだ木を粉々にして接着剤で固めた合成木材の芯材に銘木の板を張り付けて作つてあるが、そういうたゞまかしではなく総無垢の材質でできないものか検討した。高価な銘木が大量に必要なうえ、無垢の木材は生き続けているため十分に乾燥させなければならない。加工製作には高度な技術が必要とされ、一番の難関となつた。

次の問題は塗装である。どんな丈夫な木

○写真左上: 漆は和紙で十分にすり込む
○写真左下: 伝統技法を使った分解できる構造



う小さくて材質の良い仏壇」が完成した。

材質は木の宝石といわれる銘木、ウォールナット。クルミ科の広葉樹で古くから世界の高級家具に使用されており、強靭で耐久性に優れ、狂いも少ないので特徴だ。樹齢100年の丸太を北米から取り寄せ、十分に乾燥させてから製材して使う。表面は漆を十分にすり込み、室に入れて1~2日乾かすスリ漆塗りの技法で4~5回塗り重ねた。こうすることでしつどりした光沢が出るうえ、木の素材感は失わずに木目の美しさを引き立て、時間が経つにつれて表面強度や耐久性も増していく。スリ漆は古くなつても簡単に塗り直しができるため、30年に度ほど修理をしていけば100年以上使うことが可能だ。組立には胴突き、抜きほぞ、クサビ止めといった伝統的な技法を使い、分解組立が容易にできてごまかしのない構造となつていて。厳選した天然素材を芸の技で磨き上げた、本物志向の仏壇の完成であった。



伝統とモダンの融合が 新たな美を生み出す



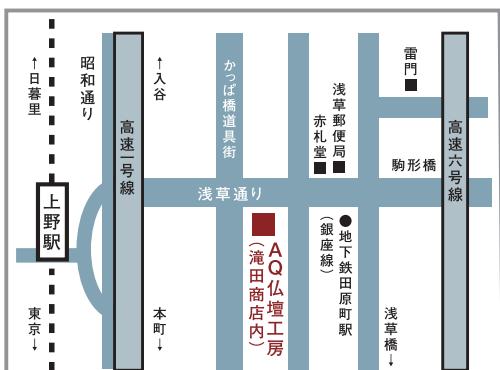
永久仏壇

そのこだわりは?

厳選された樹齢100年を越える

北米産ウォールナットの無垢材を使用。
芯材に合成木材を一切使わない本物の味わい。
天然塗料のスリ漆塗りを施した自然の温もり。
分解組立ができる徹底した匠の技。

再生修理が容易にでき、永遠の美しさを保つ。



●地下鉄銀座線「田原町」駅下車徒歩2分

資料請求・お問い合わせ先

AQ仏壇工房

東京都台東区寿2-8-11(株)滝田商店内

電話

03-3841-6191

ホームページ <http://www.butsudanya.jp>

永久仏壇が製作された「AQ仏壇工房」には、「永久」と「Advanced Quality (高品質)」のふたつの意味が込められている。永久に高品質な美しさを保つこと。それには伝統とモダンの融合が不可欠だ。構造とデザインを担当した山縣さんはいう。「伝統は知恵の結晶ですから、単純な造形志向で変えてはいけないと思うんです。古くからある伝統からモダンに移行するには、きちんとしたテーマや必然性が必要です。従来の仏壇は寺の形式ですが、仏教の形式や慣習が変わっている今、新しい様式を作るべきだと思いました。工芸には仏教性があるし、工芸を極めることで生きている人を救うというテーマで出来たのが永久仏壇です。シン



活をともにするものですから、天然の温度をそばにおくことで心の安らぎを与えたなら嬉しいです。日本には素晴らしい伝統技術がたくさんあるから、それを残していくみたい。小さいマンションに合うよう形は変わっても、伝統を残していく方法はありますから。こんなに小さくてこれだけ材質がいい仏壇だから、将来子供が別の場所で生活することになつても、この永久仏壇だけは持つててくれると思います」
上質の天然素材に伝統の技を刻むことで多様性が生まれた、新たなスタイルの仏壇。流れる年月で美を膨らませながら、これから約100年、それ以上も温かく見守り続けてくれるに違いない。



取材／文・松本典子